

## ■ リサーチコンペ研究成果 ■

## ◆ 報告書 ◆

## リサーチコンペ成果報告書

三 隅 貴 史\*

## 1. はじめに

筆者は、2015年度関西学院大学先端社会研究所リサーチコンペにおいて研究助成金を獲得し、2016年3月まで助成金を用いた研究活動を行った。その成果を『京都民俗』（第34号、2016年11月発行）に、「『神輿会』研究の課題——都市祭礼研究の一視点」というタイトルで2016年3月末に投稿した所、掲載されるに至った。

以下では、助成金を用いた研究活動において得られた知見について、『京都民俗』に投稿を行った論文の視点と論文の要約を踏まえて紹介する。

## 2. 得られた知見

## 2.1. 神輿会研究の視点

申請者は研究活動の中で、神輿会が有するフォークロア（例えば、会の成員が祭礼の場において実践しているパフォーマンスや、成員に共有されている言語芸術、マテリアル・ロア、成員の価値観、組織、祭礼に参加するための方法、地域や別の会との関係構築の方法、祭礼への参加以外に会が実施していることなど）を記録してきた。これまでの神輿会に関する先行研究においては、地域の人びとが「よくわからないもの」として会を表象する語りを採用し、「神輿会を利用して渡御を成功させる地域」という視点から神輿会を記述したものが多く見られる。そのような環境において、筆者の神輿会そのものを対象として実施した参与観察・聞き取り調査の記録は独自のものといえる。

そして、このような神輿会に対する参与観察・聞き取り調査の結果、筆者は「祭礼同士が影響を与え合うことによる変化」を明らかにするために、神輿会の有するフォークロアの研究を進めていく必要があると考えるに至った。神輿会は、東京23区東部の祭礼での所作を理想化・内面化した上で、全国の祭礼に複数回参加している。そのことが、様々な祭礼の要素が、別の祭礼にも用いられるようになるといった、祭礼同士の影響の与え合いを活発化させてきた。「複数の祭礼の間での変化」に関する現象は、これまでの研究では必ずしも注目されてきたとはいえず、神輿会に注目することに独自の視点である。

---

\* 社会学研究科博士課程前期課程

## 2.2. 投稿論文要約

以下では、本助成によって得られた知見を提示するために、上記の視点を採用した『京都民俗』への投稿論文の要約を記載する。

本論文の目的は、これまで主要な研究対象とされてこなかった「神輿会」を研究することが、都市祭礼研究の文脈においてどのような意義を持つのかを示すことである。

これまでの都市祭礼研究において神輿会は、「一つの祭礼」において「維持手法として用いられる静的な存在」として描かれてきた。しかし筆者は、神輿会を「既存の祭礼構造に影響を与えうる動的な存在」として捉えなおす。その上で、複数の祭礼に参加している神輿会を研究することで、「複数の祭礼同士が影響を与え合うことによる変化」を明らかにしていく必要があると考える。

神輿会の成員が執筆した書籍である日本神輿協会アカデミー編（2010）を分析したところ、草創期の神輿会は、1950年代後半から1960年代に東京23区東部において成立してきたこと、1970年代には23区全体で会の成立が相次ぐことなどが判明した。東京圏の多くの神輿渡御は1970年代に大きく変化し、現在に至っている。江戸前担ぎといった都市祭礼の諸要素を神輿会が創造・発展させてきたことによる祭礼の変化、また祭礼において神輿会が一定の地位を得ていることによる祭礼の変化、そして東北・東海地方などにおける東京23区東部の祭礼の所作の理想化に起因する祭礼の変化に関して、神輿会に注目する視点から明らかにする必要があるといえる。

なお、2.1. で論じてきた「会の有するフォークロア」は非常に奥が深く、1年間で調査結果を公表することは困難であると考えたため、今回の投稿論文に直接これらのデータを引用することは行っていない。ただし、参与観察や聞き取り調査において得られた「神輿会の成員の価値観」からもたらされた気付きは、先述のとおり本論文に生かされている。

## 3. 今後の課題

筆者は助成が終了した本年度も、神輿会に対する継続的な参与観察・聞き取り調査を実施している。その中で、神輿会が、今日東京圏の神輿渡御において自明なものとされている「江戸前担ぎ」という所作や、「粋な服装」といったマテリアル・ロアを、鳶を原型として創造してきた可能性があることについて研究してきた。

今後は、東京周辺の戦前に神輿を有していなかった地域や、全く異なった神輿文化を有していた地域において、なぜ東京23区東部の祭礼の所作やマテリアル・ロアが自明なものとされているのかについて、「神輿会」や「祭礼用品ショップ」といった、「複数の祭礼において共通している部分」から明らかにしていきたいと考えている。

参考文献

- 日本神輿協会アカデミー編, 2010, 『日本神輿同好会名鑑——日本神輿協会創立三〇周年記念』, 日本神輿協会アカデミー.
- 三隅貴史, 2016, 「『神輿会』研究の課題——都市祭礼研究の一視点」, 『京都民俗』 34, pp.1-24.